

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
木村康利 平田公一	IV-C.1. 急性膵炎、b.外科的治療	上西紀夫、菅野健太郎、戸田剛太郎	消化器疾患最新の治療 2005-2006	南光堂	東京	2005	417-420

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Takada T, Yasuda H, Amano H, Yoshida M	A Duodenum – preserving and bile duct – preserving total pancreatic head resection with associated pancreatic duct – to – duct anastomosis	J Gastrointest Surg	8	220-224	2004
Sugimoto M, Takada T, Yasuda H	A new experimental pancreatitis by incomplete closed duoddenal loop	pancreas	28巻4号	112-119	2004
吉田雅博、高田忠敬、安田秀喜、長島郁雄、天野穂高、三浦文彦、井坂太洋、豊田真之、杉本真樹、高木健司、加藤賢一郎	ガイドライン作成に向けての提案—急性膵炎診療ガイドライン作成経験より—	胆道	18巻2号	159-164	2004
高田忠敬、吉田雅博	序/肝胆膵の救急画像—救急のガイドラインを踏まえて—	消化器画像	6巻2号	163-165	2004
Matsuno S, Egawa S, Fukuyama S, Motoi F, Sunamura M, Isaji S, Imaizumi T, Okada S, Kato H, Suda K, Nakao A, Hiraoka T, Hosotani R, Takeda K	Pancreatic cancer registry in Japan 20years of experience	Pancreas	28(3)	219-230	2004
Egawa S, Takeda K, Fukuyama S, Motoi F, Sunamura M, Matsuno S	Clinicopathological Aspects of Small Pancretic Cancer	Pancreas	28(3)	235-240	2004

Funayama Y, Fukushima K, Shibata C, Koyama K, Miura K, Yakahashi K, Hashimoto A, Sasaki I, Kinouchi Y, Hiwatashi N, Takeda K, Matsuno S	Acute pancreatitis complicating ulcerative colitis under administration of corticosteroid in surgical cases ・Letter to the editor	J Gastroenterol	39(6)	592-594	2004
乙供茂、砂村眞琴 元井冬彦、安部忠義、福山尚治、江川新一、武田和憲古川徹、松野正紀	5-FU併用chemoradiatioとGemcitabineで根治手術が可能となった局所進行膵頭部癌の1例	日消外会誌	37(4)	434-439	2004
武田和憲	オープンドレナージによる腸管穿孔のマネージメント、コツは？	医薬の門	44(2)	37-39	2004
武田和憲、江川新一、福山尚治、松野正紀	膵空腸全層統一層吻合	手術	58(8)	1245-1251	2004
江川新一、武田和憲、福山尚治、阿部永、横山忠明、砂村眞琴、松野正紀	全国膵癌登録からみた膵癌の臨床病理学的問題点	病理と臨床	22(8)	791-797	2004
武田和憲	重症急性膵炎に対する膵局所動注療法	救急・集中治療	16(8)	957-862	2004
福山尚治、武田和憲、江川新一、砂村眞琴、松野正紀	重症急性膵炎の最近の進歩	消化器科	39(3)	300-305	2004
武田和憲	造影CTによる急性膵炎の画像診断と重症度評価	消化器画像	6(5)	605-611	2004
武田和憲	血管造影所見からみた急性膵炎	医薬の門	44(5)	356-357	2004
武田和憲	重症化にかかわる循環障害の役割	日本臨床	62(11)	1999-2004	2004
武田和憲	重症急性膵炎に対する蛋白分解酵素阻害剤・抗菌薬膵局所動注療法	日本臨床	62(11)	1999-2004	2004
砂村眞琴、江川新一、元井冬彦、福山尚治、横山忠明阿部永、赤田昌紀、武田和憲、松野正紀	膵嚢胞性腫瘍の診断と治療におけるコンセンサスの現状	消化器科	27(12)	1835-1842	2004
福山尚治、三上幸夫、江川新一、武田和憲、松野正紀	急性膵炎の臨床分類とその病態	日本臨床	62(11)	1973-1976	2004

江川新一、大石英和、佐藤明弘、石橋忠司、森谷卓也、砂村眞琴、武田和憲、松野正紀	通常型膵管癌	肝胆膵	49(5)	655-662	2004
武田和憲、松野正紀	急性膵炎発症早期における膵血流障害	Surgery Frontier	11(3)	273-279	2004
武田和憲	1. 急性膵炎－エビデンスに基づく診療ガイドライン 4. 重症急性膵炎の特殊治療	日内会誌	93(1)	24-28	2004
武田和憲、松野正紀	重症急性膵炎診療の手引き	胆と膵	25(2)	75-79	2004
Takeda K, Mikami Y, fukuyama S, Egawa S, Sunamura M, Ishibashi T, Sato A, Masamune A, Matsuno S	Pancreatic ischemia associated with vasospasm in the early phase of human acute necrotizing pancreatitis	Pancreas	30(1)	40-49	2004
武田和憲	慢性膵炎の手術適応	外科治療	92(1)	88-90	2004
武田和憲	Evidenceに基づいた重症急性膵炎の治療	日集中医誌	12(1)	17-24	2004
江川新一、福山尚治、岡田恭穂、阿部永、赤田昌紀、横山忠明、元井冬彦、砂村眞琴、武田和憲、松野正紀	膵内分泌腫瘍の外科治療	消化器科	7(1)	73-78	2004
武田和憲	急性膵炎をどのように診断し治療するか？ 重症度判定とエビデンスに基づいた新しい診療ガイドライン	Medical Practice	22(2)	184-195	2004
桂巻正、水口徹 木村康利、本間敏男、鶴間哲弘、古畑智久、平田公一、島津光伸、田村美穂	マイクロアレイによる外科感染症の早期診断	Surgery Frontier	11	63-66	2004
木村康利、高室雅、村上弦、信岡隆幸、向谷充宏、桂巻正、平田公一	膵頭十二指腸領域の解剖と縮小手術	北海道外科雑誌	49巻	3-8	2004

江副英理、浦英樹、平田公一	【外科領域における栄養管理】 病態別栄養管理法の実際 重症感染症	日本外科学会誌	105巻	223-227	2004
浦英樹、木村康利平田公一	ガイドラインからみた重症急性膵炎の治療	侵襲と免疫	12	58-63	2004
平田公一	【特集；急性膵炎】基本的な治療方針－初期治療ガイドラインとその意義	日本臨床	62	2049-2056	2004
平田公一、真弓俊彦、木村康利、吉田唯博、大槻眞松野正紀、高田忠敬	【胆膵疾患診療ガイドライン 2004 年】 急性膵炎の診療ガイドラインガイドラインの解説と問題点	胆と膵	25	67-73	2004
真弓俊彦、有嶋拓郎、高橋英夫、武澤 純、	重症膵炎	救急医学	28	205-208	2004
真弓俊彦、武澤 純	急性膵炎における栄養療法とその役割	日本臨床	62	2079-2085	2004
真弓俊彦、伊藤亜抄子、小野寺睦夫、阿部知伸、福岡敏雄、有島拓郎、榊原陽子、高橋英夫、武澤 純	急性膵炎の栄養管理	臨床栄養	104	818-821	2004
真弓俊彦、武澤 純	急性膵炎にマーゲンゾンデは必要か？	医薬の門	44	42-43	2004

参考

厚生労働省科学研究（医療技術評価総合研究事業）
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班

平成 16 年度研究会議

第 1 回研究会議（平成 16 年 6 月 30 日）議事録

第 2 回研究会議（平成 16 年 12 月 15 日）議事録

第 3 回研究会議（平成 17 年 1 月 7 日）プログラム、議事録

第 1 回 *JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis*

作成出版委員会会議（平成 17 年 2 月 26 日）プログラム、議事録

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
(主任研究者 吉田雅博)
第1回会議 議事録

日時：平成16年6月30日 16:00-17:30
場所：日本医療機能評価機構 小会議室
東京都千代田区神田駿河台3丁目1番地
三井住友海上駿河台別館ビル7階

出席者：

- ・主任研究者(班長)：吉田雅博(帝京大学)
- ・医療評価機構(理事)：山口直人(東京女子医大教授)
- ・同(医療情報事業部 事業調整課長)：星佳芳(東京医科歯科大学)

議事

1. 吉田、山口教授、星先生の挨拶によって会議が開始された。
2. 吉田による今回の研究班の結成の経緯、目的の紹介。

2004年7月に発刊された「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」(金原出版)は、すでに出版7,000部を超え、日本における急性膵炎の標準的診療指針として広く浸透しつつある。しかし、実臨床においては十分に満足できる状態とはいえない。急性膵炎の性格ゆえに、突発的に発症し、その病態は急速に悪化することが多い事、さらに他疾患の治療中に発症する場合や、夜間当直時に救急入院し即時の対応が必要となる場合も多い。時間的な猶予がない事態も少なくない。これに対し、現在もっとも普及しているインターネットを用いてガイドライン利用を可能とすることはきわめて有用と考えられる。特に、厚生労働省が推進しているMinds事業がその目的に合致しており、今回共同で急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班を立ちあげた。さらに、ガイドライン内容も再検討して、必要な情報に最短の時間でたどり着けるように、臨床質問形式(クリニカルクエスチョン方式)を用いる方法を採用する予定である。

今回の研究班でのガイドライン作成に当たって「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」作成および出版責任者である日本腹部救急医学会(理事長 高田忠敬教授=分担研究者)からも協力(許可承諾)が得られていることが伝えられた。「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」(金原出版)が、資料として配布され、作成の目的や経緯、社会的な意義について説明が行われた。

3. 医療評価機構理事からの解説

医療評価機構(理事、山口直人教授)から医療評価機構でのガイドラインに関する取り組みや、医療技術評価総合研究医療情報サービス(Minds事業)についての解説が行われた。ガイドラインやガイドラインに引用される文献のアブストラクトフォームをホームページ上で公開する計画の紹介が行われた。

4. 医療評価機構担当者からの解説

事業調整課長(星佳芳先生)より、日本医療機能評価機構ホームページ上ですでに運用が開始されているガイドライン(くも膜下出血、脳梗塞、喘息、糖尿病)やガイドラインに引用される文献のアブストラクトフォームをホームページ上で操作するデモンストレーションが行われた。

本年度さらにホームページ上に追加掲載作業中の4疾患(急性心筋梗塞、胃潰瘍、乳癌、肺癌)に加えて、急性膵炎の診療ガイドラインを掲載すべく申請中であることが報告された。

5. 診療ガイドライン運営委員会について(山口理事)

本年7月15日に日本医療機能評価機構において診療ガイドライン運営委員会(委員長：京都大学 福井次矢教授)が開催され、本年度の日本医療機能評価機構ホームページ作成についての報告、検討が行われる。急性膵炎診療ガイドラインの件についても同会議で、最終決定される予定であることが報告された。

6. 今後の作業予定について

7月15日の日本医療機能評価機構の診療ガイドライン運営委員会の決定を受けて医療技術評価総合研究医療情報サービスセンター 医療情報事業部においてデータベース化作業が正式に開始される。この作業とは別に次の作業が平行して必要となる。

- ① 急性膵炎診療ガイドライン(第一版)作成後の新しいエビデンスの抽出と評価作業
- ② 上記ガイドラインには作成されなかった「クリニカルクエスチョン」を作成する。

- ③ 現在まだ標準的診療方法とはいえないまでも、第2版出版時には推奨される可能性があるような有望な診療手段に関しては、「Topics」という欄を設けて、第二版までのつなぎとする。

7、分担研究者の作業について

上記①②③の作成研究あるいは評価を担当していただくとともに、第一版の本文内容のデータベース化に際しての評価、訂正作業を分担していただく予定。

8、ガイドライン作成普及の他研究との連携について（吉田）

市民向けガイドライン作成研究班（主任研究者：京都大学 中山助教授、分担研究者：福井教授、今中教授、吉田ほか）、一般臨床医向けダイジェスト版作成作業等が平行して進行している。これらの研究プロジェクトとも連携をとる。いずれにしても、それぞれは、最終的に Minds 事業のホームページに集約されることが理想である。

9、ガイドラインのデータベース化時代の医療裁判について（吉田）

厚生労働省管轄の Minds 事業において各疾患のガイドラインが一般公開され、これを認識せずに医療行為を行って医療事故が発生した場合、医療者側が敗訴する可能性が高い。「現在の日本において施行されるべき標準的診療指針」として絶対と行っていいほどの力を持つ可能性が高いため、外部評価や再検討機構を十分に確立してゆく必要がある。

10、次回打ち合わせ

7月15日の日本医療機能評価機構の診療ガイドライン運営委員会の決定を受け早急に開催予定。次回の会議では8月30日の市民向けガイドライン作成研究班の第1回班会議の結果も報告する予定。

以上（文責：吉田）

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
(主任研究者 吉田雅博)
第2回会議 議事録

日時：平成16年12月15日 13:30-16:00
場所：日本医療機能評価機構 小会議室
東京都千代田区神田駿河台3丁目1番地
三井住友海上駿河台別館ビル7階

出席者：

- ・主任研究者(班長) : 吉田雅博(帝京大学)
- ・医療評価機構 医療情報事業部 事業調整課長：星 佳芳
- ・医療評価機構 医療情報事業部 事業調整課 調整係長：小園麗子

議題

1. 「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」の電子データに関する報告
2. Mains 事業における急性膵炎の診療ガイドラインのデータベース化の進行報告と問題点：提示方法と内容の再検討、専門学会とのリンクについて
3. 一般臨床医向けのガイドライン作成の可能性について
4. 「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」の改訂版作成について
5. その他

議事

3. 吉田の挨拶によって会議が開始された。
4. 吉田により「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」の電子データに関する報告が行われた。
 - 1) 「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」PDF ファイル完成
「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」内容をすべて PDF ファイル化し、学会ホームページに掲載予定となった。全文の無料閲覧が可能となる。
日本腹部救急医学会ホームページ <http://plaza.umin.ac.jp/jaem/>
日本膵臓学会ホームページ <http://www.kojin.or.jp/suizou/>
著作権に関しては、「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン」出版責任者、日本腹部救急医学会 高田忠敬理事長および金原出版に確認し、了承を得た。
 - 2) 上記 PDF ファイルの Minds のホームページへの掲載に関して
案としては、①直接添付するか②上記両学会へのリンクを貼ることが挙げられる。直接添付方式はページが重くなり利用者の使い勝手が悪くなること、内容が重複すること、学会へのリンクを貼ることで利用者に特に不便になることはほとんどないことを考慮し、日本腹部救急医学会ホームページ (<http://plaza.umin.ac.jp/jaem/>) 日本膵臓学会ホームページ (<http://www.kojin.or.jp/suizou/>) へのリンクを貼ることとした。両学会への連絡を行う必要あり。
5. Mains 事業における急性膵炎の診療ガイドラインデータベース化の進行報告と問題点
 - (ア)診療ガイドライン運営委員会について
本年7月15日に日本医療機能評価機構において診療ガイドライン運営委員会(委員長:京都大学 福井次矢教授)が開催され、本年度の日本医療機能評価機構ホームページ作成についての報告、検討が行われ、急性膵炎診療ガイドラインの件についても同会議で最終決定された。
 - (イ)提示方法と内容の再検討
目次ページの表示方法の工夫：
 - ① 医療者のガイドライン使用時の利便を考慮し、厚生労働省急性膵炎重症度判定基準(別表)を目立つように提示する。緊急時に迅速な重症度判定をサポートする
 - ② 患者、介護者向けの解説および公費負担制度(重症急性膵炎の場合)の申請のためのサポートとして難病情報センターのホームページのリンクを設け、申請書のダウンロードを可能にした(<http://www.nanbyou.or.jp>)

6、今後の作業予定について

2004/12 : Minds 内容の加筆修正

2005/01/09 班会議 : 最終案の提示

2005/02/14 Minds ホームページ上での急性膵炎の項のアップ (公開)

2005/03 以降 ダイジェスト版 (一般臨床医向けガイドライン) 公開への作業開始

2005/04 以降 改定第2版作成作業開始予定

7. ガイドライン作成普及の他研究との連携について (吉田)

市民向けガイドライン作成研究班 (主任研究者 : 京都大学 中山助教授、分担研究者 : 福井教授、今中教授、吉田ほか) の成作業等が平行して進行している。これらの研究プロジェクトとも連携をとる。いずれにしても、それぞれは、最終的に Minds 事業のホームページに集約されることが理想である。

8、ガイドラインのデータベース化時代の医療裁判について (吉田)

厚生労働省管轄の Minds 事業において各疾患のガイドラインが一般公開され、これを認識せずに医療行為を行って医療事故が発生した場合、医療者側が敗訴する可能性が高い。「現在の日本において施行されるべき標準的診療指針」として絶対とっていいほどの力を持つ可能性が高いため、外部評価や再検討機構を十分に確立してゆく必要がある。

以上 (文責 : 吉田)

平成 16 年 12 月 1 日

ガイドラインワーキンググループ
委員 各位

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性膵炎の研究班
主任研究者 吉田雅博

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
(主任研究者 吉田雅博)
第 3 回会議のご案内

謹啓

平素より当研究班の活動におきましては大変お世話になっております。
さて、標記につきまして、下記の通り開催致しますので、御出席の程宜しくお願い致します。

謹白

記

日時：平成 17 年 1 月 7 日 16:00～17:00
会場：東京八重洲ホール 会議室（JR 東京駅八重洲中央口より徒歩約 3 分）
〒103-0027
東京都中央区日本橋 3-4-13
TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111
<http://www.yaesuhall.co.jp/>

謝金：支給なし

交通費：医療機能評価機構（Minds 事業）より支給

議題：急性膵炎診療ガイドラインのインターネット公開に関する Minds 事業説明

以上

厚生労働科学研究医療技術評価総合研究事業
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
(主任研究者 吉田雅博)
第3回会議 議事録

日時：平成17年1月7日16:00～17:00

会場：東京八重洲ホール 会議室（JR東京駅八重洲中央口より徒歩約3分）

〒103-0027

東京都中央区日本橋3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

出席者：出席者：平田公一、伊東昌広、遠藤 格、木村康利、桐山勢生、須藤幸一、堂脇昌一、
 椰野正人、広田昌彦、三浦文彦、横室茂樹、海野倫明、小倉行雄、関本美穂、田中 篤、
 名郷直樹、畠 二郎、上野博一、吉田雅博、真弓俊彦

欠席者：高田忠敬

議事：急性膵炎診療ガイドラインのインターネット公開に関する Minds 事業説明

Minds

Medical Information Network Distribution Service

医療情報サービス 厚生労働科学研究費補助金により試験公開中

 日本医療機能評価機構 Minds について

- [>サービスの概要](#)
- [>提供情報の概要](#)
- [>提供情報の評価選定・編集の基本的考え方](#)

情報提供者について

- [>医療情報サービスセンター](#)
- [>財団法人 日本医療機能評価機構](#)
- [>ご協力者一覧](#)

Minds の使い方

医療提供者向け情報

- [>医療現場での活用方法](#)
- [>サービスの使い方](#)
- [>ユーザー登録について](#)

一般向け情報

- [>ガイドラインの使い方](#)
- [>サービスの使い方](#)

医療提供者向け情報 ダイジェスト版

- [>ガイドラインの使い方](#)

お知らせ

【重要】システムメンテナンスによるサーバー停止のお知らせ

『肺癌』の診療ガイドラインを公開しました。

「医療提供者向け情報 START」ボタンをクリックしてもページが表示されない場合について

- [>お知らせの一覧](#)

[>ヘルプ](#) [>お問い合わせ](#)
[ヘルプ](#) | [診療質問箱](#) | [ケースレポート受付](#) | [サイトマップ](#) | [Minds について](#)

Minds 医療情報サービス

[>登録情報確認](#) | [ログアウト](#)

医療提供者向け情報

▶ 対象とする疾患を選択してください。

テスト

H15(2003)テスト【専門医向け】

クモ膜下出血

H14(2002)「科学的根拠に基づくクモ膜下出血診療ガイドラインの策定に関する研究」平成 13 年度研究報告書/ガイドライン引用文献(2001 年まで)簡易版抄録を掲載

喘息

H11(1999)「喘息ガイドライン作成に関する研究」平成 11 年度研究報告書/ガイドライン引用文献(2000 年まで)簡易版抄録を掲載

糖尿病

H12(2000)「科学的根拠(evidence)に基づく糖尿病診療ガイドライン」平成 12 年度研究報告書/ガイドライン引用文献(2000 年まで)を簡易版抄録を掲載

脳梗塞

H14(2002)「Evidence に基づく日本人脳梗塞患者の治療ガイドライン策定に関する研究」平成 13 年度総括研究報告書/ガイドライン引用文献(2001 年まで)簡易版抄録を掲載

肺癌

H15(2003)Evidence-based Medicine(EBM)の手法による肺癌の診療ガイドライン策定に関する研究

急性心筋梗塞

H13(2001)「急性心筋梗塞の診療エビデンス集 -EBM より作成したガイドライン-」平成 11 年度厚生科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)急性心筋梗塞及びその他の虚血性心疾患の診療情報の整理に関する研究

胃潰瘍

H14(2002)「科学的根拠(evidence)に基づく胃潰瘍診療ガイドラインの策定に関する研究」厚生科学研究費補助金 21 世紀型医療開拓推進研究事業

脳出血

H15(2003)「Evidence に基づく日本人脳出血患者の治療ガイドライン策定」/厚生科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業

急性膵炎

H15(2003)エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン

白内障

H14(2002)「科学的根拠(evidence)に基づく白内障診療ガイドラインの策定に関する研究」厚生科学研究補助金(21 世紀型医療開拓推進研究事業:EBM 分野)

過去のガイドラインを閲覧する

[個人情報取り扱い](#) | [プライバシーポリシー](#) | [サービス利用規約](#) | [免責事項](#) | [お問い合わせ](#)

日本医療機能評価機構

copyright© 2003 Japan Council for Quality Health Care. All Rights Reserved.

> [登録情報確認](#) | [ログアウト](#)

医療提供者向け情報

[急性膵炎疾患を変更する](#)

[目次一覧](#)、[検索](#) [すべて](#)

[ガイドライン](#) | [関連文献](#) | [トピックス](#) | [クリニカルクエスチョン](#)

見出しをクリックすると本文を表示します。[+]アイコンをクリックすると下の階層を開きます。

≡ [第 I 章 序：目的、作成方法、使用方法](#)

1. [本ガイドラインの目的](#)
2. [本ガイドラインの使用法](#)
3. [ガイドライン作成法](#)
- ≡4. [ガイドライン作成出版構成委員](#)
 - 1) [出版責任者](#)
 - 2) [出版委員](#)
- ≡5. [ガイドライン作成ならびに評価に関する委員](#)
 - 1) [ガイドライン作成検討委員会](#)
 - 2) [ガイドライン評価委員会](#)
6. [文献検索方法、信頼度、推奨度](#)
7. [改訂](#)
8. [資金](#)
9. [患者・家族向けの解説](#)
10. [出版ならびにホームページによる閲覧](#)
11. [公費負担制度](#)

≡ [第 II 章 文献レベルの分類法と推奨度](#)

1. [文献レベル-治療/予防、病因/害-](#)
2. [文献レベル-予後-](#)
3. [文献レベル-診断-](#)
4. [文献レベル-経済的評価-](#)
5. [推奨度分類](#)

≡ [第 III 章 用語の定義](#)

1. [急性膵炎](#)
 2. [急性浸出液貯留](#)
 3. [壊死性膵炎](#)
 4. [感染性膵壊死](#)
 5. [膵仮性嚢胞](#)
 6. [膵膿瘍](#)
- [写真\(1~4\) 急性膵炎各病態の CT](#)

≡ [第 IV 章 急性膵炎の疫学](#)

1. [発生頻度](#)
- ≡2. [成因](#)
 - 1) [本邦の急性膵炎の特徴](#)
 - 2) [成因別の特徴](#)
3. [再発率](#)
4. [慢性膵炎への移行](#)

5. 死亡率
6. 死因と死亡時期
7. 長期予後

第 V 章 基本的診療方針のフローチャートと重症度スコア(別表 1-5)

1. 基本的診療方針
 2. 胆石性膵炎の診療方針
- ⇒別表：急性膵炎の診断基準と重症度スコア

別表 1 急性膵炎臨床診断基準

別表 2-1 厚生労働省急性膵炎の重症度判定基準と重症度スコア

別表 2-2 急性膵炎の Stage 分類

別表 2-3 急性膵炎の CT Grade 分類

別表 3 Ranson スコア

別表 4 Glasgow スコア

別表 5. APACHE II スコア

参考資料 公費負担制度

写真(5~12) CT Grade

第 VI 章 急性膵炎の診断

1. 臨床症状・徴候

⇒2. 血液・尿検査

- 1) 血中アミラーゼ(血中総アミラーゼ)
- 2) 血中 p 型アミラーゼ(アミラーゼ・アイソザイム)
- 3) 尿中アミラーゼ
- 4) 血中リパーゼ
- 5) 血中エラスターゼ 1
- 6) その他の血中膵逸脱酵素
- 7) 急性膵炎の診断に測定が推奨される膵酵素

⇒3. 画像検査

- 1) 胸・腹部単純 X 線
- 2) 超音波検査
- 3) Computed tomography(CT)
- 4) Magnetic resonance imaging(MRI)
- 5) Endoscopic retrograde cholangiopancreatography(ERCP)
- 6) Endoscopic ultrasonography(EUS)
- 7) Magnetic resonance cholangiopancreatography(MRCP)

写真(13~19) 皮膚出血斑、単純 X-P、CT、MRI

第 VII 章 急性膵炎の重症度診断

1. 重症度判定の必要性

⇒2. 重症度判定

- 1) 臨床徴候(臨床所見)
- 2) 血液検査による重症度判定
- 3) その他の因子
- 4) 画像診断

3. 重症度スコア

- 1) 歴史的経過
- 2) 重症度判定基準の評価

4. 搬送基準

-第 VIII 章 急性膵炎の治療

1. 基本的治療方針

2. 輸液

3. 経鼻胃管

-4. 薬物療法

1) 鎮痛薬

2) 抗菌薬

3) 蛋白分解酵素阻害薬

4) ヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬

5) 酢酸 octreotide(somatostatin analogue)

6) 抗コリン薬

7) CDP コリン(シチコリン)

8) その他の薬剤

5. 栄養療法

6. 選択的消化管除菌

7. 腹腔洗浄、腹膜灌流

8. 血液浄化法

9. 蛋白分解酵素阻害薬・抗菌薬持続動注療法

-10. 胆石性膵炎における胆道結石に対する治療

1) 内視鏡的手技

2) 外科的手技

-11. 外科的治療

1) 壊死性膵炎

2) 膵膿瘍

3) 膵仮性嚢胞

-引用文献とそのレベル

引用文献とそのレベル(第 II 章・第 III 章)

引用文献とそのレベル(第 IV 章)

引用文献とそのレベル(第 VI 章)

引用文献とそのレベル(第 VII 章)

引用文献とそのレベル(第 VIII 章)

<重要> 公費負担制度(医療費助成)について ←申請書ダウンロードはこちら

-<重要> 別表：急性膵炎の診断基準と重症度スコア

別表 1 急性膵炎臨床診断基準

別表 2-1 厚生労働省急性膵炎の重症度判定基準と重症度スコア

別表 2-2 急性膵炎の Stage 分類

別表 2-3 急性膵炎の CT Grade 分類

別表 3 Ranson スコア

別表 4 Glasgow スコア

別表 5. APACHE II スコア

参考資料 公費負担制度

写真(5~12) CT Grade

H16-医療-069 厚生労働省科学研究（医療技術評価総合研究事業）
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis
作成出版委員会 第1回会議のおしらせ

謹啓

向春の候、先生におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは、急なお願いにも関わらず委員をお引受いただきましてありがとうございます。第1回会議を下記の如く開催致しますので、お集まりいただきます様お願い申し上げます。

恐縮ですが、当日までに「エビデンスに基づいた急性膵炎の診療ガイドライン 第1版」を一通りお目通し頂き、英文版作成に先立ち、訂正すべき項目があれば、抽出検討、訂正案をご用意下さいます様お願い申し上げます。

謹白

記

日時：平成17年2月26日 9:30～13:00

会場：東京八重洲ホール 414 会議室（JR東京駅八重洲中央口より徒歩約3分）

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

<http://www.yaesuhall.co.jp/>

議題：1) 英文版ガイドライン作成の意義と方法

2) ガイドライン第1版の内容吟味と加筆修正部位の検討

3) 今後の予定

4) 研究費補助の件

5) その他

謝金：支給なし。

交通費：支給あり。

以上

平成17年2月17日

JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis

出版責任者 高田忠敬

H16-医療-069 厚生労働省科学研究（医療技術評価総合研究事業）

急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班

主任研究者 吉田雅博

事務局 吉田雅博 yoshidam@med.teikyo-u.ac.jp

173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部外科 電話 03-3964-1228、FAX 03-3962-2128

（ご不明な点につきましては、吉田までご連絡ください。yoshidam@med.teikyo-u.ac.jp）

H16-医療-069 厚生労働省科学研究（医療技術評価総合研究事業）
急性膵炎の診療ガイドラインの電子化、活用に関する研究班
JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis
作成出版委員会第1回会議
議事録

日時：平成17年2月26日9:00～13:00

会場：東京八重洲ホール 414 会議室（JR東京駅八重洲中央口より徒歩約3分）

〒103-0027 東京都中央区日本橋3-4-13

TEL:03-3201-3631、FAX:03-3274-5111

出席：出版責任者：高田忠敬 帝京大教授

委員長：平田公一 札幌医大教授

委員：伊佐地秀司助教授（三重大）、木村康利助手（札幌医大）、小泉勝 病院長（大原医療センター）、関本美穂助手（京都大）、武田和憲助教授（東北大）、真弓俊彦講師（名古屋大）、吉田雅博講師（帝京大）

欠席：委員：広田昌彦講師（熊本大）

議事

高田出版委員長による挨拶により会議が開始された。

膵炎の英文化を行うにあたり、その趣旨と方法について説明があった。

1. 出版形式：

- 論文形式にするか？JHPBS に特集号を組む（杉町先生が Surgery を一卷買い取り作成）
各項目をそれぞれ、論文になる。10項目くらいの論文にして作成する
ただし、Double Publication の問題を回避する必要あり。

× 英文の本を作るか？（出版社はどこにするか？）：膵癌取り扱い規約のようなもの→ 一部しか
知られない可能性あり。その場合、出版元はどうするか？配布方法：IHPBA 役員におくるか？

2. 経費関係：厚生労働省科学研究班 500万：分配済

英文翻訳料がかさむため、可能な先生は研究費を少しお返しいただくこととする。

3. 著作権について：金原出版との著作権については、解決済

4. 出版責任については、松野教授、大槻教授より賛成をえた。

5. 出版委員について、現在の役員で問題ない。

6. 内容について

△ 欧米の医師を対象とするか？

○ 日本の実情で作るべきか？ エビデンスは、こうであるが、日本の実情はこうである。という
論文のほうが良いのではないか？

7. 内容について

本文に関しては、まず日本語で作成していただき、その文章を翻訳会社に依頼し、英文を委員で
最終チェックすることとする。

8. 文献を2004年までの分を追加する。

I. タイトル

JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis

- ① JHPBS の 1 号を買い取り、論文形式で投稿する。
- ② 雑誌名、バンクーバー形式で記載、引用文献は全員の名前を省略せずにのせる
- ③ 別冊に副題のタイトルをつける。

副題:*JPN Guideline for the management of Acute Pancreatitis*

- ④ 各項目ごとの論文を作成し、投稿する形式をとる。
- ⑤ 著者は、本委員会委員(10名)と松野教授、大槻教授を含む計12名。
基本的に acknowledgement にこれまでの班員、共同研究者、working group、評価委員などの名前を入れる。
- ⑥ なお、各論文において推奨度をつけた場合には、(*)を付け、脚注を付記する。推奨度の詳細に関しては下記「1. JPN Guideline for Acute Pancreatitis の目的と作成法」に詳記し、各論文はこれを引用する。
- ⑦ 用語の定義(写真)は Appendix として巻末最後部につける。
- ⑧ 文献を 2004 年までの分を追加する。
- ⑨ もともと英語の表は、原文にもどって、英語にさせていただく

II. 内容;

(下記 9 編の論文を作成し、投稿する形とする)

1. JPN Guideline for Acute Pancreatitis の目的と作成法→高田教授

- ✓ Author を入れる。(wcknowledgement に諸先生を入れる)
- ✓ 本の序章(序文、目的、使用法、文献検索方法)を英訳して記載する。
- ✓ 文献レベル、推奨度など各分類法ここに入れる。
- ✓ 各委員、関係諸先生の指名を記載する。

2. Management strategy for acute pancreatitis in JPN Guideline→真弓先生

- ✓ (フローチャート)
- ✓ その他の論文ならびに項目の引用を行いながら解説する。
- ✓ 基本的
それぞれの項目を解説する。
膵炎の診断基準に当てはめる。
診断、初期治療、重症度評価の outline を提示
- ✓ 胆石性膵炎は別個提示。詳細は同 journal 内の各論文を引用する。

3. 日本における急性膵炎診療体制と公費負担制度→吉田先生

公費負担制度、日本の基本的保険制度の概略、難病指定(ホームページ)、保険制度、プライマリーケアのシステムの解説。

4. 疫学:日本における急性膵炎の特徴、(実情):Epidemiology in Japan→関本先生

- ✓ 日本の data は、厚生労働省の報告書を引用する
- ✓ 日本語の論文も可能な限り引用する。この場合、題名を英文表記する。雑誌社ならびにタイトルは問い合わせのこと。

10. JPN diagnostic criterion and severity, 搬送基準→広田先生

- ✓ 診断基準と重症度判定基準、
- ✓ 広田先生:Pancreas に英文論文が掲載されており、引用して載せるのとともに、解説文章を付ける。CT Grade、Stage 分類を入れて解説文章を付ける。